

光の賛歌

Impressionists at the Waterside

印象派展

パリ、セーヌ、ノルマンディの水辺をたどる旅
Depicting urban resorts: Paris, the Seine, and Normandy

印象派の画家たちが活躍した19世紀後半は、水辺が生活に潤いをもたらす余暇を過ごす場所としてクローズアップされた時代でもありました。

都市部の近代化にともない、市民のあいだに休日のレジャーが普及すると、アルジャントゥイユやブージュヴァルといったパリ近郊のセーヌ川沿いの町や村が、身近な行楽地として人々を惹き付けました。さらに鉄道網の発達も相まって、余暇を楽しむ人々の足は、美しい海水浴場や切り立った断崖、賑わいを見せる港など数多くの魅力的な場所に恵まれたノルマンディ海岸にも向けられました。

都会の喧騒を離れた豊かな自然とともに、レジャー客でにぎわう行楽地の様子は、同時代の市民生活を描き出した印象派の画家たちの創作意欲を掻き立てる格好のテーマとなりました。

本展では、セーヌやノルマンディの「水辺」を舞台に描かれた約80点の作品で、彼らが追い求めた「光の中の風景」に迫ります。

■入館料金 大人1,200(1,000)円 大高生800(700)円 中小生400(300)円、未就学児無料
新館常設展示室もご覧になれます。()内は前売券、割引料金 [20名以上の団体、65歳以上の方、メルマガ登録者ほか] 前売券は8月1日(木)から2014年1月5日(日)まで。ローソンチケット(Lコード:32427)、チケットぴあ(Pコード:765-794) *土曜日は中小生無料 *誕生日当日にご来館された方はご本人のみ無料 [証明書をご提示ください] *障がい児者、付添者1名は半額 [証明書をご提示ください]

■ 展覧会公式ホームページ <http://www.eventsankei.jp/inshoha>

■ お問い合わせ 042-691-4511 (東京富士美術館)

※展示会場は作品保存のため、温度を低く設定しております。

表図版
ピエール=オーギュスト=ルノワール《ブージュヴァルのダンス》(部分) 1883年 油彩/カンヴァス
ボストン美術館



バス
・JR八王子駅北口12番のりばより
(平日・土曜の始発から12:27 発までは14番のりば)
・京王八王子駅4番のりばより
創価大正門東京富士美術館行き/創価大学循環
創価大正門東京富士美術館下車
お車
中央高速八王子インターチェンジ、第2出口より
八王子市街方面へ進み国道16号に合流、
三つ目の信号を右折(谷野街道入口)、直進し
二つ目の信号を右折

メルマガジンを
配信致します。
登録ください!



TOKYO FUJI ART MUSEUM
東京富士美術館

〒192-0016 東京都八王子市谷野町492-1 TEL.042-691-4511



アルフレッド・シスレー《モレの橋》1893年 油彩/カンヴァス
オルセー美術館
©RMN-Grand Palais (musée d'Orsay)/Hervé Lewandowski/distributed by AMF



アルフレッド・シスレー《春の小さな草地》1880年 油彩/カンヴァス
テート ©Tate, London 2013



カミーユ・ピサロ《小川で足を洗う女》1894/95年 油彩/カンヴァス
シカゴ美術館 Photography©The Art Institute of Chicago



クロード・モネ《日本の橋》1918-24年頃 油彩/カンヴァス
バイエラー財団美術館 ©Foudation Beyeler, Riehen/Basel, Sammlung Beyeler



ベルト・モリゾ《テラスにて》1874年 油彩/カンヴァス
東京富士美術館 ©Tokyo Fuji Art Museum

世界8カ国40館の名作、一挙公開。



Dance at Bougival (detail), Renoir, oil on canvas, Picture Fund
Photograph © 2013 Museum of Fine Arts, Boston

光の賛歌 印象派展

パリ、セーヌ、ノルマンディの水辺をたどる旅
Impressionists at the Waterside
Depicting urban resorts: Paris, the Seine, and Normandy

2013 10 | 22 | 火 — 2014 1 | 5 | 日
休館日: 毎週月曜日 (ただし、11/4、12/23は開館。11/5、12/24は休館)、年末年始 [12/27(金)~1/1(水)]

- 開館時間 10:00~17:00 (16:30 受付終了)
- 主催 東京富士美術館、産経新聞社 ■ 後援 外務省、文化庁、アメリカ合衆国大使館、オーストラリア大使館、カナダ大使館、スイス大使館、ドイツ連邦共和国大使館、在日フランス大使館/アンステイチュ・フランセ日本、ブリティッシュ・カウンシル、八王子市、八王子市教育委員会、サンケイスポーツ、夕刊フジ、フジサンケイビジネスアイ、SANKEI EXPRESS
- 特別協賛 TOPPAN 凸版印刷株式会社 三菱UFJ信託銀行
- 協賛 王子ホールディングス株式会社、清水建設株式会社、新菱冷熱工業株式会社、野崎印刷紙業株式会社
- 協力 日本航空、NHKエデュケーション、ヤマトロジスティクス ■ 企画 東京富士美術館

TOKYO FUJI ART MUSEUM
東京富士美術館



第1章 セーヌ河畔の憩い パリ近郊の川辺を描く画家たち

印象派の画家が活躍を始める1860年代。パリのブルジョワたちは、週末になるとサン=ラザール駅から汽車に乗って郊外へと出かけ、自然に恵まれた行楽地で余暇を楽しむようになりました。1830年代に開通した鉄道がセーヌ川に沿って路線を拡げ、人々をセーヌ河畔に点在する水辺に誘ったのです。

こうしたライフスタイルの変化に呼応して、印象派の絵画はレジャーを主題とし、都会のリゾート地を描くようになります。印象派は当時の社会現象と密接に結びついて、パリの近郊にある川辺を訪ね、描くという新しい風景画の世界を開拓してゆきました。

印象派の画家が愛した場所は、パリ中心部のセーヌ河岸、支流ロワン川が流れるセーヌ川の上流域、パリの北西から西の郊外に大きく蛇行するセーヌ川の下流域の3つのエリアです。パリから半径20キロ圏内の行楽地——アルジャントウイユ、シャトゥー、ブージュヴァルや、シスレーが過ごしたサン=マメス、モネが睡蓮を描いたジヴェルニーは、印象派の聖地としてその名をとどめています。



クロード・モネ《ジヴェルニーの林、イーゼルに向かうブランシュ・オシュデと本を読むシュザンヌ・オシュデ》1887年 油彩/カンヴァス
ロサンゼルス・カウンティ美術館
Digital Image © 2013 Museum Associates / LACMA, Licensed by Art Resource, NY



クロード・モネ《荒天のエトルタ》
1883年 油彩/カンヴァス
ヴィクトリア国立美術館 National Gallery of Victoria, Melbourne, Felton Bequest, 1913 (582-2)



ウジェーヌ・ブーダン《ドーヴィルの海水浴》
1865年 油彩/カンヴァス
ワシントン・ナショナル・ギャラリー Courtesy National Gallery of Art, Washington, Collection of Mr. and Mrs. Paul Mellon

世界の有名美術館から印象派の名画が集結！

■主な借用先

フランス

- オルセー美術館
- オランジュリー美術館
- マルモッタン美術館
- グルノーブル美術館
- サン=ティエンヌ近代美術館
- カミーユ・ピサロ美術館
- ディエップ城美術館

ドイツ

- ヴァルラフ=リヒャルト美術館

イギリス

- テート
- ケルビングロブ美術館
- バーミンガム美術館
- サウサンプトン市立美術館
- シェフィールド美術館
- リーズ市立美術館

スイス

- バイエラー財団美術館

オーストラリア

- ヴィクトリア国立美術館

カナダ

- カナダ国立美術館

アメリカ

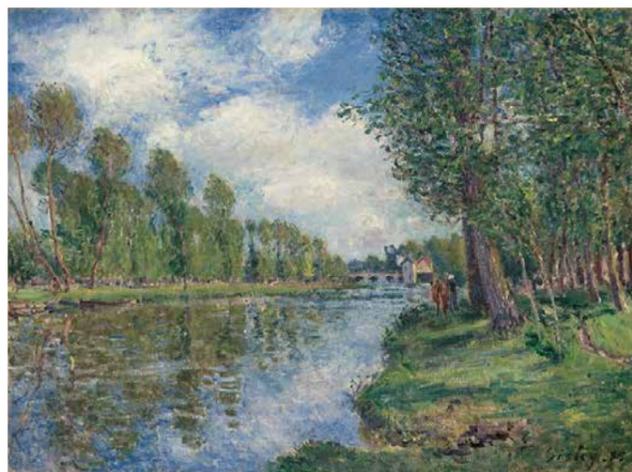
- ボストン美術館
- ワシントン・ナショナル・ギャラリー
- シカゴ美術館
- フィラデルフィア美術館
- ロサンゼルス・カウンティ美術館
- トリード美術館
- コロンバス美術館
- ブルックリン美術館
- ハイ美術館
- ディクソン美術館
- オバーリン大学アレン記念美術館
- アーカンソー・アート・センター



カミーユ・ピサロ《ルーアンのボワエルデュー橋、日没》
1896年 油彩/カンヴァス
バーミンガム美術館 ©Birmingham Museums Trust



クロード・モネ《アルジャントウイユのセーヌ川》
1873年 油彩/カンヴァス
グルノーブル美術館、オルセー美術館より寄託 © RMN-Grand Palais (musée d'Orsay, dépôt au musée de Grenoble) / Hervé Lewandowski / distributed by AMF



アルフレッド・シスレー《ロワン川の岸辺》
1885年 油彩/カンヴァス
フィラデルフィア美術館 Philadelphia Museum of Art: Bequest of Charlotte Dorrance Wright, 1978

第2章 ノルマンディ海岸の陽光 海辺を描く画家たち

フランスの首都圏イル=ド=フランスの田園地帯を縫って蛇行するセーヌの流れは、ノルマンディ地方の玄関口となる大都市ルーアンに至り、川幅を広げながら大西洋に注ぎ込みます。巨大な河口の左岸にはオンフルール、右岸にはル・アーヴルといった古くから栄えた港町があります。

オンフルールから南西に向かう海岸線にはトゥルヴイル、ドーヴィルなど、ル・アーヴルから北東に向かう海岸線にはサン=タドレス、エトルタ、フェカン、プーヴイル、ディエップなどの保養地が散在しています。こうした風光明媚な海辺の景観は、光に敏感な印象派の画家の注目を集めました。

これらの場所は、以前は都会から離れた漁村にすぎませんでしたが、1863年にパリからトルヴイルまで鉄道が開通し、都会から富裕な市民層が余暇を過ごすために訪れるようになり、観光地化していったのです。印象派の画家は、明るい光の効果を求めて、陽光が燦々と降り注ぐ浜辺の情景や、夏のバカンスのひとときを過ごす人々の姿を描きとどめました。



クロード・モネ《プーヴイルの上げ潮》
1882年 油彩/カンヴァス
ブルックリン美術館 Brooklyn Museum, Gift of Mrs. Horace O. Havemeyer



ギュスターヴ・カイユボット《トゥルヴイルのレガッタ》
1884年 油彩/カンヴァス
トリード美術館 Photography Incorporated, Toledo